

## 講演会

### アジアと国際紛争

#### —21 世紀アジアにおける国際協力と NGO の役割 第 5 回—

日程：2011 年 11 月 2 日（水）

会場：国士舘大学世田谷キャンパス多目的ホール

主催：国士舘大学アジア・日本研究センター 共催：国士舘大学 21 世紀アジア学部

講演者：渡部 陽一（戦場カメラマン）

開催の挨拶：柴田 徳文（国士舘大学アジア日本・研究センター副センター長 政経学部）

司会：中山 雅之（国士舘大学アジア日本・研究センター研究員 21 世紀アジア学部）

本講演会は2011年11月2日（水）、本センターの研究員である中山雅之が担当する「21世紀アジアにおける国際協力とNGOの役割」を主テーマとした研究プロジェクトの第5回目の公開イベントとして、戦場カメラマンとして有名な渡部陽一氏をお招きして、国士舘大学の世田谷校舎で開催された。本講演会は学内のみならず広く一般の方にもその場を開き、当日は500名を超える聴衆の方にお集まりいただき、これから始まる講演会への期待が会場に充満し、始まった。冒頭、本研究センターの副センター長である柴田徳文教授が、戦争の悲惨さについて触れ、歓迎と開催の挨拶を行った。

全体は3部の構成となっており、第1部では渡部氏が「学生」から「戦場カメラマン」になるまでの話から始まり、取材現場での体験をご講演いただいた。しかしそれは、身振り手振りを交えてと言う程度では到底表現できない、舞台狭しと、端から端までを最大限に使用した一人舞台と言ってもいいほどの講演であった。また、その長身も舞台全体を小さくしていた。その中でいわゆる売れない頃は、横浜の港でバナナの積み下ろしをして、取材資金を調達していた話し等は、その笑顔からは想像がしづらい部分であったが、何かほっとしたことでもあった。また取材先の現地で、銃をもった子供兵士に取り囲まれた、「つらい」経験は、聴衆の心に大きな問いを投げかけていた。

第2部では、アジアやその他の地域で取材をした写真や映像を見せていただきながら戦場の現場の状況をご説明いただいた。無人攻撃飛行機や爆撃によって被害を受けた子供の様子、いずれも聴衆のいる日本の日常では、そうそう遭遇しないものであったが、その力強い語り口が、スクリーンに写されることが聴衆一人ひとりの自分ごとにしていく様子であった。

そして、第3部は、聴衆からの質問の時間となったが、これ以前より渡部氏のいわゆるファンの方が更に熱のこもった講演にすっかり感化され、講演に負けず劣らない熱い質問が投げかけられた。これからカメラマンになりたいが遅くないか、また自身の日本での戦争の経験から、戦争の悲惨さに対するコメント等、第3部の時間もあっという間に終わりを迎えた。会を閉じるに当たり、最後に渡部氏は集まった聴衆に数度わたりお辞儀をされたが、その姿は竿竹がちょうど真ん中から折り畳まれるごとく、深々と大変丁寧なもので、同氏の人となりがきれいに映し出されているものであった。

---

今回の公演は、21世紀のアジアにおいても今尚、戦争がなされており、その現地では届かない声が大変多く存在していることを再度認識する良い機会となった。そして聴衆からは、「何か分からないけれど、何かをしなければいけない気持ちになった」と言う言葉を戴き、これが本講演を物語っているのではないかと感じた次第であった。最後に、会場のスペースに限りがあり、ご希望をされておられながらも、お越しいただけなかった皆さまには、お詫びを申し上げます。